

20030220

厚生労働科学研究研究費補助金

長寿科学総合研究事業

高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システム構築に関する研究

平成15年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 長田 久雄

平成16(2004)年 3月

高齢者の社会参加に関連する要因の解明と支援システム構築に関する研究

目 次

I. 総括研究報告

地域高齢者の社会参加と影響要因に関する研究	1
-----------------------------	---

長田久雄

関連資料

(資料) 高齢者の社会参加に関するアンケート調査用紙 (平成14年度分)

(資料) 高齢者の社会参加に関するアンケート調査用紙 (平成15年度分)

II. 分担研究報告

1. 高齢者の社会参加と健康的な生活習慣との関連に関する研究	17
--------------------------------------	----

芳賀博

関連資料

2. 高齢者の社会参加とQOLの関係に関する研究	26
--------------------------------	----

高田和子

関連資料

3. 高齢者の多面的社会参加が幸福感に及ぼすインパクトに関する研究 ...	35
---------------------------------------	----

西下彰俊

関連資料

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
総括研究報告書

地域高齢者の社会参加と影響要因に関する研究

主任研究者 長田 久雄 桜美林大学大学院国際学研究科老年学専攻教授

研究要旨

本研究の目的は、高齢者の社会参加に関連する要因を検討し、社会参加が社会貢献および参加者の心身の健康維持増進と生活の質向上につながるような条件整備の方途を明らかにすることである。本年度は、高齢者の社会的活動への参加を促進もしくは妨害している要因および社会的活動への参加が心身に及ぼす効果を吟味し、さらに、社会参加を促進し、潜在化している高齢者のマンパワーを活用するためのモデルの試案を示すことを目的とする。

昨年度（平成 14 年度）の調査として、平成 14 年 12 月に、足立区のシルバー人材センターおよび老人クラブ代表を介して、60 歳以上の 3,357 人に調査票を配布し、1,924 人から回答が得られた。回収率は 52.3%であった。今年度は、昨年度回答の得られた足立区のシルバー人材センターおよび老人クラブ会員 1,924 人のうち、追跡調査協力の承諾が得られた 1,566 人を対象とした。平成 14 年度の調査の 1 年後に当たる平成 16 年 1 月 13 日に、調査票を対象宅へ直接送付し、2 月 10 日までに 1,342 人から回答が得られた。回収率は 85.7%であった。昨年度の調査項目は、年齢、性別、同居家族、生活満足度、健康度自己評価、日常生活活動能力、生活の質評価、収入のある仕事の有無、社会的活動の種類と程度、重要だと思う社会的活動、社会的活動への参加のきっかけ、将来の生活に対する考え、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因、身体の具合、通院、日常生活習慣、孤独感、幸福感であり、今年度（平成 15 年度）の調査項目は、上記に、日常生活の悩みの有無、前回の調査から今までの間の生活上の大きな変化の経験の項目を加えた。

社会的活動に関する 34 項目のうち、まとまりの良くない項目を除外して 13 項目で因子分析を行った結果、訪問、地域、趣味の 3 因子が抽出された。つぎにこれらの因子項目の合計得点と、性、年齢、社会的活動の参加意義、きっかけ、妨害要因の各項目との相関を検討し、有意な相関の得られた項目を独立変数、3 因子のそれぞれを目的変数として重回帰分析を行った。

その結果、各因子に影響する可能性のある要因として、性、社会参加・社会活動の意義、家族、友人、健康・身体状態、経済状態、広報・メディア・自治体からの呼びかけ、個人の意志、自分にあった活動（活動の種類）、費用、時間的余裕、ライフスタイルなどが見出された。これらの結果に加え、分担研究者の分析から得られた結果を加え、社会的活動を中心として影響要因と効果のモデル試案を作成した。

上記の結果から、高齢者の社会的活動への参加は心身の健康や幸福感、QOL を高めるために有用であり、地域において社会的活動への参加を促進するために集中すべきことは、1. 社会的活動のプログラムやメニューを作成する前に、性と年齢を考慮しつつ当該地域住民の要望を正確に把握すること、2. 住民の要望に沿った可能な限り多様な活動に、低費用で参加できるプログラム・メニューを提供しその運営の支援をすること、3. 友人や仲間作りを支援するシステムを構築すること、4. 様々な媒体を通じた情報の提供を含め、活動へのアクセスを整備すること、5. 地域住民が活動自体と活動への参加の意義を見出せるように、住民主体の活動が可能となる柔軟かつ多様な支援システムを構築すること、であると考えられた。今後は、社会的活動に関連する要因を詳細に分析し、地域住民に対する面接調査結果、および政策担当者への面接調査の結果を含めて、高齢者の社会参加支援システムの構築を行う。

分担研究者 芳賀博
東北文化学園大学医療福祉学部
教授,
高田和子
独立行政法人国立健康・栄養研究所
健康増進研究部
主任研究員,
西下彰俊
金城学院大学現代文化学部
教授

A. 研究目的

本研究の目的は、高齢者の社会参加に関連する要因を検討し、社会参加が社会貢献および参加者の心身の健康維持増進と生活の質向上につながるような条件整備の方途を明らかにすることである。筆者らの50歳代を中心とした勤労者とその配偶者を対象とした調査¹⁾において、定年退職後に、ボランティアなどを通して社会貢献をしたいと考えているか、という質問を実施したが、その結果、勤労者の78.2%、配偶者の68.9%が、積極的にしたい、機会があればしたいと回答していた。一方、定年退職後に、ボランティアなどを通して社会貢献をする準備をしているか、という質問に対しては、勤労者の83.5%、配偶者の83.5%が、まったくしていない、あまりしていない、と回答していた。

高齢社会においては、高齢者のマンパワーを積極的に活用することが不可欠である。しかし、先述のように、定年退職後に社会貢献をしたいと考えている人が少なくないにもかかわらず、そうした準備をしていない中高齢者が多く、実際には高齢者の社会参加、社会貢献も不十分である可能性が示唆される。本研究の最終的な目的は、社会参加を促進し、潜在化している高齢者のマンパワーを活用するためのシステムを提案することにある。そこで、本年度は、高齢者の社会的活動への参加を促進もしくは妨害している要因および社会的活動への参加が心身に及ぼす効果を吟味し、さらに、社会参加を促進し、潜在化している高齢者のマンパワーを活用するためのモデルの試案を示すことを目的とする。

B. 研究方法

対象：平成14年の調査として、平成14年12月に、足立区のシルバー人材センターおよび老人クラブ代表を介して、60歳以上の3,357人に調査票

を配布し、1,924人から回答が得られた。回収率は52.3%であった。研究目的に沿って、分析対象は65歳以上と限定した。分析対象1,638人の性別構成は男性1,131人(69.0%)、女性502人(30.6%)、不明5人(0.3%)であり、年齢区分は、60歳代と70歳代で全体の93.6%を占めており、平均年齢は71.3歳、標準偏差は4.80歳であった。今年度は、昨年度(平成14年度)回答の得られた足立区のシルバー人材センターおよび老人クラブ会員1,924人の内、追跡調査協力の承諾が得られた1,566人を対象とし、1,342人から回答が得られた。回収率は85.7%であった。分析対象は65歳以上とした。分析対象1,163人の性別構成は男性824人(70.9%)、女性339人(29.1%)であり、年齢区分は、60歳代と70歳代で全体の94.0%を占めており、平均年齢は71.4歳、標準偏差は4.78歳であった。さらに、今年度郵送調査で回答の得られた1,342人の対象のうち、549人に対し、面接による追調査への協力を電話にて要請し、119人の個別面接の承諾が得られた(承諾率21.7%)。そのうち、46人の面接を行った(平成16年3月31日現在)。また、質問紙調査の対象とはならなかった地域高齢者23人に、平成16年1月23日～2月14日に、2年度目の質問票を含む面接調査を行った。

調査期間と手続き：平成14年度の調査では、平成14年12月17日に、調査票をシルバー人材センターおよび老人クラブ代表に一括送付し、シルバー人材センターでは、1月6日から10日の間に、各支部より登録会員に対して個別に、また、老人クラブにおいては、ほぼ同時期に代表者から会員に個別に配布した。平成15年1月から2月に、郵送および区内に設定した会場において個別に回収した。会場においては、調査票の確認と次年度の追跡調査への協力の諾否を中心とした面接を行った。今年度は、平成14年度の調査の1年後に当たる平成16年1月13日に、調査票を対象宅へ直接送付した。2月10日までに1,360通の返送があり、転居にて住所不明による返送10通、対象死亡による返送4通および理由不明未記入の返送4通、計18通を除く、1,342人から回答が得られた。

調査内容：平成14年度の調査項目は、年齢、性別、同居家族、生活満足度、健康度自己評価、日常生活活動能力、生活の質評価、収入のある仕事の有無、社会的活動の種類と程度、重要だと思う社会的活動、社会的活動への参加のきっかけ、

将来の生活に対する考え、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因、身体具合、通院、日常生活習慣、孤独感、幸福感であった^{2) 3) 4) 5)}。今年度(平成15年度)の調査項目は、上記に、日常生活の悩みの有無、前回の調査から今までの間の生活上の大きな変化の経験の項目を加えた。さらに、面接調査においては、身近にいる社会的活動への参加の乏しい人物を思い浮かべてもらい、社会的活動への参加の妨害要因およびその対応策を尋ねた。

(倫理面への配慮)

調査への協力要請にあたり、得られたデータはプライバシーに配慮し、集団のデータとして処理する旨、および研究目的以外には使用しない旨の説明を文書にて行い、調査票への記入をお願いした。さらに、今年度は答えにくい質問は回答しなくともよいという説明を加えた上で、協力者にはアンケートに協力する旨の同意署名を依頼した。

データ解析にあたっては、ID番号によって作成されたデータベースを使用し、対象の氏名、住所等の個人情報はいっさい扱わなかった。

C. 研究結果

本報告全体では、平成14年度回収された1,924人のデータの詳細な分析を基に、分担研究者の芳賀は社会参加活動と健康習慣との関連、高田は社会参加とQOLとの関連、西下は社会参加が幸福感に及ぼす影響について、それぞれ後述する。ここでは、本研究全体を包括する観点から、はじめに、昨年度回収された1,924人のデータのうち、分析対象を65歳以上と限定した、1,638人のデータを基に、性別、年齢、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因、社会的活動への参加に関する結果について述べる。

まず、社会的活動に関する質問項目(1)から(34)の各内容を変数とし(資料平成14年度調査票参照)、各項目の回答について「いつもしている」を4点、「ときどきしている」を3点、「あまりしていない」を2点、「まったくしていない」を1点として得点化し、社会的活動の程度を検討するために因子分析を行った。統計パッケージは、SPSS11.5Jを用いた。因子分析を行うに当たり、まとまりの良くない項目のチェックを行い、

反応に偏りのない項目を、因子分析に投入することとし、反応に偏りのある項目は個別に分析を行うこととした。

各項目の得点が大きいほど社会的活動に参加していることを示し、これを社会参加得点と呼ぶこととした。社会参加得点の平均、標準偏差、および最小値・最大値は表1の通りであった。不良項目のチェックの結果、34項目中、20項目(項目9・15・16・18・19・20・21・22・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34)で平均±標準偏差の値が尺度の上限値・下限値を超えていたため、天井効果または床効果が生じたものと判断し、これらの項目は因子分析に投入しないこととした。残りの14項目(項目1・3・4・5・6・7・8・10・11・12・13・14・17・23)について、因子分析を行った。14項目の相関行列を表2に示す。共通性の初期値を1とし、最尤法バリマックス回転により因子を抽出した。その結果、3因子解を適当と判断した。著しく共通性の低かった項目23(.063)を除外して、再度、3因子解を仮定した因子分析を行った。最終的に分析した項目数は13個となった。このとき全体に対する3因子の累積説明率は44.2%、反復推定後の説明分散は5.74であった。回転後の各項目の因子負荷量を表3に示す。表3において因子負荷量の絶対値0.50以上を示した項目の内容を参考に各因子を解釈した。まず、因子Ⅰに対して、「遠くの友人を訪問する」、「近くの親戚を訪問する」、「近くの友人を訪問する」と「遠くの親戚を訪問する」が高い正の負荷を示していた。これらの項目から、因子Ⅰは、友人や親戚を訪問することに関連する因子であると解釈し、訪問因子と命名した。Cronbachの α 係数は.763であった。次に、因子Ⅱに対して、「町内会や自治会の活動」と「地域の行事の参加」が高い正の負荷を示していた。両項目から、因子Ⅱは、地域に関わる行事等の活動に関連する因子であると解釈し、地域因子と命名した。 α 係数は.765であった。最後に、因子Ⅲに対して、「レクリエーション活動」、「趣味の会など仲間内の活動」と「スポーツや運動」が高い正の負荷を示していた。これらの項目から、因子Ⅲは、趣味など仲間内での活動に関連する因子であると解釈し、趣味因子と命名した。 α 係数は.718であった。

次に、これら3因子の社会参加得点をそれぞれ目的変数とし、基本的特性である性別、年齢、さらに、社会的活動に参加する意義の捉え方と、社

会的活動への参加のきっかけ、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因のうち相関係数の有意であったものを説明変数として重回帰分析を行った。

(1) 訪問因子を目的変数とし、表4に示す通り、目的変数との相関が有意であった、性別、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ(4項目)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因(8項目)、環境的要因(2項目)、制度的要因(2項目)を予測変数とした重回帰分析を行った。その結果、有意水準5%で、表4の8項目において有意な影響が見られた。訪問因子の社会参加得点に有意な影響が見られた変数は、性別($\beta = .157, p < .01, r = .190, p < .01$)、社会的活動の参加意義($\beta = .208, p < .01, r = .252, p < .01$)、社会的活動への参加のきっかけとしては、友人のすすめ($\beta = .122, p < .01, r = .154, p < .01$)、自治会等の呼びかけ($\beta = .088, p < .01, r = .138, p < .01$)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因としては、誘ってくれる友人がいない($\beta = -.099, p < .01, r = -.143, p < .01$)、身体的疾患がある($\beta = -.054, p < .05, r = -.083, p < .01$)、環境的要因としては、費用がかかりすぎる($\beta = -.049, p < .05, r = -.086, p < .01$)、制度的要因としては、能力が活動に生かせない($\beta = -.061, p < .05, r = -.106, p < .01$)であった。決定係数は.164であった。

(2) 地域因子を目的変数とし、表5に示す通り、目的変数との相関が有意であった、性別、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ(3項目)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因(8項目)、環境的要因(0項目)、制度的要因(3項目)を予測変数とした重回帰分析を行った。その結果、有意水準5%で、表5の6項目において有意な影響が見られた。地域因子の社会参加得点に有意な影響が見られた変数は、性別($\beta = .067, p < .01, r = .082, p < .01$)、社会的活動の参加意義($\beta = .157, p < .01, r = .243, p < .01$)、社会的活動への参加のきっかけとしては、友人のすすめ($\beta = .103, p < .01, r = .154, p < .01$)、自治会等の呼びかけ($\beta = .424, p < .01, r = .469, p < .01$)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因としては、誘ってくれる友人がいない($\beta = -.093, p < .01, r = -.136, p < .01$)、制度的要因としては自分にあった活動がない($\beta = -.049, p < .05, r = -.085, p < .01$)であった。決定係数は.288であった。

(3) 趣味因子を目的変数とし、表6に示す通り、

目的変数との相関が有意であった、性別、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ(6項目)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因(4項目)、環境的要因(1項目)、制度的要因(1項目)を予測変数とした重回帰分析を行った。その結果、有意水準5%で、表6の12項目において有意な影響が見られた。趣味因子の社会参加得点に有意な影響が見られた変数は、性別($\beta = .082, p < .01, r = .098, p < .01$)、社会的活動の参加意義($\beta = .203, p < .01, r = .269, p < .01$)、社会的活動への参加のきっかけとしては、友人のすすめ($\beta = .131, p < .01, r = .177, p < .01$)、区の広報を見て($\beta = .065, p < .01, r = .130, p < .01$)、新聞等の情報($\beta = .050, p < .05, r = .088, p < .01$)、自治会等の呼びかけ($\beta = .142, p < .01, r = .195, p < .01$)、個人の意志($\beta = .091, p < .01, r = .126, p < .01$)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因としては、ライフスタイルに合わない($\beta = .067, p < .01, r = .056, p < .05$)、視力の衰え($\beta = -.060, p < .05, r = -.069, p < .01$)、誘ってくれる友人がいない($\beta = -.072, p < .01, r = -.096, p < .01$)、過去の経験をいかせない($\beta = -.084, p < .01, r = -.086, p < .01$)、制度的要因としては、費用がかかりすぎる($\beta = -.073, p < .01, r = -.069, p < .01$)であった。決定係数は.169であった。

反応に偏りのあった社会的活動の20項目(項目9・15・16・18・19・20・21・22・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34)について、それぞれ、性別、年齢、社会的活動に参加する意義の捉え方と、社会的活動への参加のきっかけ、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因との相関係数を算出した。以下に、相関係数が.15以上の変数のみ示す。満年齢と有意な正の相関がみられたのは、老人会の活動($r = .185, p < .01$)であり、負の相関がみられたのは、学校の同窓会($r = -.172, p < .01$)であった。性別と有意な正の相関がみられたのは、生活用品などの買い物($r = .406, p < .01$)であった。社会的活動の参加意義と有意な正の相関がみられたのは、町内会や自治会役員として活動($r = .209, p < .01$)、老人会の活動($r = .161, p < .01$)、社会奉仕($r = .314, p < .01$)、特技などを人に伝える活動($r = .223, p < .01$)、高齢者学級などの活動($r = .206, p < .01$)、カルチャーセンターなどの学習活動($r = .217, p < .01$)、市民講座などへの参加($r = .292, p < .01$)、市民活動など団体の参加($r = .248, p < .01$)、政治団体への参加($r = .241, p < .01$)、会社OB会

への参加 ($r=.185, p<.01$)、宗教団体の活動 ($r=.154, p<.01$)、各種協議会の委員 ($r=.235, p<.01$) であった。社会的活動への参加のきっかけにおいて、友人のすすめと有意な正の相関がみられたのは、特技などを人に伝える活動 ($r=.150, p<.01$)、市民活動など団体の参加 ($r=.161, p<.01$) であった。区の広報を見てと有意な正の相関がみられたのは、カルチャーセンターなどの学習活動 ($r=.158, p<.01$)、市民講座などへの参加 ($r=.174, p<.01$) であった。活動団体の呼びかけと有意な正の相関がみられたのは、社会奉仕 ($r=.170, p<.01$)、市民活動など団体の参加 ($r=.192, p<.01$)、政治団体への参加 ($r=.159, p<.01$) であった。自治会等の呼びかけと有意な正の相関がみられたのは、町内会や自治会役員として活動 ($r=.430, p<.01$)、老人会の活動 ($r=.303, p<.01$)、社会奉仕 ($r=.252, p<.01$)、特技などを人に伝える活動 ($r=.157, p<.01$)、市民講座などへの参加 ($r=.173, p<.01$)、市民活動など団体の参加 ($r=.263, p<.01$)、政治団体への参加 ($r=.217, p<.01$)、PTAのOB会の参加 ($r=.187, p<.01$)、学校学習の支援 ($r=.159, p<.01$)、および各種協議会の委員 ($r=.190, p<.01$) であった。個人の意志と有意な正の相関がみられたのは、市民講座などへの参加 ($r=.160, p<.01$) であった。

次に、今年度回収された1,432人のデータのうち、分析対象を65歳以上と限定した1,163人のデータを基に、性別、年齢、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因、社会的活動への参加に関する結果について述べる。

まず、社会的活動に関する質問項目(1)から(34)の各内容を変数とし(資料平成15年度調査票参照)、各項目の回答について「いつもしている」を4点、「ときどきしている」を3点、「あまりしていない」を2点、「まったくしていない」を1点として得点化し、社会的活動の程度を検討するために因子分析を行った。統計パッケージは、SPSS11.5Jを用いた。因子分析を行うに当たり、まとまりの良くない項目のチェックを行い、反応に偏りのない項目について、因子分析に投入することとし、反応に偏りのある項目は個別に分析を行うこととした。

各項目の得点が大きいほど社会的活動に参加していることを示し、これを社会参加得点と呼ぶこととした。社会参加得点の平均、標準偏差、お

よび最小値・最大値は表7の通りであった。不良項目のチェックの結果、34項目中、20項目(項目9・15・16・18・19・20・21・22・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34)で平均±標準偏差の値が尺度の上限値・下限値を超えていたため、天井効果または床効果が生じたものと判断し、これらの項目は因子分析に投入しないこととした。残りの14項目(項目1・3・4・5・6・7・8・10・11・12・13・14・17・23)について、因子分析を行った。14項目の相関行列を表8に示す。共通性の初期値を1とし、最尤法バリマックス回転により因子を抽出した。その結果、3因子解を適当と判断した。著しく共通性の低かった項目23(.095)を除外して、再度、3因子解を仮定した因子分析を行った。最終的に分析した項目数は13個となった。このとき全体に対する3因子の累積説明率は45.2%、反復推定後の説明分散は5.87であった。回転後の各項目の因子負荷量を表9に示す。表9において因子負荷量の絶対値0.50以上を示した項目の内容を参考に各因子を解釈した。まず、因子Ⅰに対して、「近くの親戚を訪問する」、「遠くの友人を訪問する」、「遠くの親戚を訪問する」と「近くの友人を訪問する」が高い正の負荷を示していた。これらの項目から、因子Ⅰは、友人や親戚を訪問することに関連する因子であると解釈し、訪問因子と命名した。Cronbachの α 係数は.794であった。次に、因子Ⅱに対して、「レクリエーション活動」、「趣味の会など仲間内の活動」と「スポーツや運動」が高い正の負荷を示していた。これらの項目から、因子Ⅱは、趣味など仲間内での活動に関連する因子であると解釈し、趣味因子と命名した。 α 係数は.718であった。最後に、因子Ⅲに対して、「町内会や自治会の活動」と「地域の行事の参加」が高い正の負荷を示していた。両項目から、因子Ⅲは、地域に関わる行事等の活動に関連する因子であると解釈し、地域因子と命名した。 α 係数は.813であった。

次に、これら3因子の社会参加得点をそれぞれ目的変数とし、基本的特性である性別、年齢、さらに、社会的活動に参加する意義の捉え方と、社会的活動への参加のきっかけ、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因を説明変数として重回帰分析を行った。

(1) 訪問因子を目的変数とし、表10に示す通り、目的変数との相関が有意であった、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっか

け(3項目)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因(1項目)、環境的要因(1項目)を予測変数とした重回帰分析を行った。その結果、有意水準5%で、表10の3項目において有意な影響が見られた。訪問因子の社会参加得点に有意な影響が見られた変数は、社会的活動の参加意義($\beta = .206, p < .01, r = .238, p < .01$)、社会的活動への参加のきっかけとしては、区の広報を見て($\beta = .113, p < .05, r = .182, p < .01$)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因としては、時間的余裕がない($\beta = .120, p < .05, r = .127, p < .05$)であった。決定係数は.109であった。

(2) 趣味因子を目的変数とし、表11に示す通り、目的変数との相関が有意であった、年齢、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ(4項目)、社会的活動への参加を妨害している環境的要因(1項目)、制度的要因(3項目)を予測変数とした重回帰分析を行った。その結果、有意水準5%で、表11の6項目において有意な影響が見られた。趣味因子の社会参加得点に有意な影響が見られた変数は、社会的活動の参加意義($\beta = .179, p < .01, r = .311, p < .01$)、社会的活動への参加のきっかけとしては、友人のすすめ($\beta = .162, p < .01, r = .147, p < .01$)、区の広報を見て($\beta = .130, p < .05, r = .170, p < .01$)、新聞等の情報($\beta = .163, p < .01, r = .206, p < .01$)、個人の意志($\beta = .181, p < .01, r = .254, p < .01$)、社会的活動への参加を妨害している制度的要因としては、社会的活動の情報が乏しい($\beta = .104, p < .05, r = .204, p < .01$)であった。決定係数は.236であった。

(3) 地域因子を目的変数とし、表12に示す通り、目的変数との相関が有意であった、社会的活動に参加する意義、社会的活動への参加のきっかけ(2項目)、社会的活動への参加を妨害している個人的要因(0項目)、環境的要因(1項目)、制度的要因(2項目)を予測変数とした重回帰分析を行った。その結果、有意水準5%で、表12の3項目において有意な影響が見られた。地域因子の社会参加得点に有意な影響が見られた変数は、社会的活動の参加意義($\beta = .265, p < .01, r = .295, p < .01$)、社会的活動への参加のきっかけとしては、自治会等の呼びかけ($\beta = .371, p < .01, r = .388, p < .01$)、社会的活動への参加を妨害している環境的要因としては、家族の理解が得られない($\beta = .098, p < .05, r = .118, p < .05$)であった。決定係数は.257であった。

反応に偏りのあった社会的活動の20項目(項目9・15・16・18・19・20・21・22・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34)について、それぞれ、性別、年齢、社会的活動に参加する意義の捉え方と、社会的活動への参加のきっかけ、社会的活動への参加を妨害している個人的・環境的・制度的要因との相関係数を算出した。その結果、満年齢と有意な正の相関がみられたのは、老人会の活動($r = .164, p < .01$)であり、負の相関がみられたのは、生活用品などの買い物($r = -.171, p < .01$)と学校の同窓会($r = -.188, p < .01$)であった。性別と有意な正の相関がみられたのは、生活用品などの買い物($r = .293, p < .01$)であった。社会的活動の参加意義と有意な正の相関がみられたのは、町内会や自治会役員として活動($r = .176, p < .01$)、老人会の活動($r = .247, p < .01$)、社会奉仕($r = .355, p < .01$)、特技などを人に伝える活動($r = .278, p < .01$)、高齢者学級などの活動($r = .255, p < .01$)、カルチャーセンターなどの学習活動($r = .219, p < .01$)、市民講座などへの参加($r = .274, p < .01$)、市民活動など団体の参加($r = .274, p < .01$)、政治団体への参加($r = .185, p < .01$)、PTAのOB会の参加($r = .165, p < .01$)、会社OB会への参加($r = .187, p < .01$)、宗教団体の活動($r = .213, p < .01$)、各種協議会の委員($r = .241, p < .01$)、および研修会・講座などの講師($r = .164, p < .01$)であった。社会的活動への参加のきっかけにおいて、友人のすすめと有意な正の相関がみられたのは、会社OB会への参加($r = .150, p < .01$)であった。家族のすすめと有意な負の相関がみられたのは、政治団体への参加($r = -.151, p < .01$)であった。区の広報を見てと有意な正の相関がみられたのは、カルチャーセンターなどの学習活動($r = .164, p < .01$)であった。活動団体の呼びかけと有意な正の相関がみられたのは、社会奉仕($r = .168, p < .01$)であった。新聞等の情報と有意な正の相関がみられたのは、外国旅行($r = .226, p < .01$)、高齢者学級などの活動($r = .187, p < .01$)、および学校の同窓会($r = .160, p < .01$)であった。自治会等の呼びかけと有意な正の相関がみられたのは、町内会や自治会役員として活動($r = .429, p < .01$)、老人会の活動($r = .214, p < .01$)、政治団体への参加($r = .191, p < .01$)、PTAのOB会の参加($r = .158, p < .01$)、および各種協議会の委員($r = .157, p < .01$)であった。個人の意志と有意な正の相関がみられたのは、社会奉仕($r = .201, p < .01$)、特技などを人に伝える活動($r = .194,$

p<.01)、カルチャーセンターなどの学習活動 (r=.156, p<.01)、市民活動などへの参加 (r=.181, p<.01)、および研修会・講座などの講師 (r=.167, p<.01) であった。社会的活動への参加を妨害している個人的要因において、気力の衰えと有意な正の相関がみられたのは、授業参観 (r=.154, p<.01) であった。移動時の危険があると有意な正の相関がみられたのは、宗教団体の活動 (r=.154, p<.01) と授業参観 (r=.156, p<.01) であった。誘ってくれる友人がいないと有意な負の相関がみられたのは、特技などを人に伝える活動 (r=-.239, p<.01) であった。身体的疾患があると有意な負の相関がみられたのは、生活用品などの買い物 (r=-.165, p<.01) であった。時間的余裕がないと有意な正の相関がみられたのは、生活用品などの買い物 (r=.158, p<.01) であった。社会的活動への参加を妨害している環境的要因において、家族の理解が得られないと有意な正の相関がみられたのは、生活用品などの買い物 (r=.158, p<.01) であった。家事が忙しいと有意な正の相関がみられたのは、生活用品などの買い物 (r=.153, p<.01) であった。家族の世話で忙しいと有意な正の相関がみられたのは、生活用品などの買い物 (r=.153, p<.01)、高齢者学級などの活動 (r=.150, p<.01)、市民講座などへの参加 (r=.153, p<.01)、および PTA の OB 会の参加 (r=.189, p<.01) であった。社会的活動への参加を妨害している制度的要因において、社会的活動の情報が乏しいと有意な正の相関がみられたのは、市民講座などへの参加 (r=.152, p<.01) であった。自分にあった活動がないと有意な負の相関がみられたのは、社会奉仕 (r=-.202, p<.01)、学校学習の支援 (r=-.155, p<.01)、授業参観 (r=-.179, p<.01)、および各種協議会の委員 (r=-.153, p<.01) であった。参加を支援する体制が不十分と有意な正の相関がみられたのは、社会奉仕 (r=.249, p<.01)、特技などを人に伝える活動 (r=.249, p<.01)、市民講座などへの参加 (r=.211, p<.01)、市民活動など団体の参加 (r=.185, p<.01)、インターネット上のサークル (r=.152, p<.01)、および学校学習の支援 (r=.161, p<.01) であった。

D. 考察

本研究の目的は、高齢者の社会参加に関連する要因を検討し、社会参加が社会貢献および参加者の心身の健康維持増進と生活の質向上につなが

るような条件整備の方途を明らかにすることであった。本年度は、高齢者の社会的活動への参加を促進もしくは妨害している要因および社会的活動への参加が心身に及ぼす効果を吟味し、さらに、社会参加を促進し、潜在化している高齢者のマンパワーを活用するためのモデルの試案を示すことを目的とした。

長田は、高齢者の社会的活動への参加を促進している要因および妨害している要因について検討した。平成 14 年度および平成 15 年度のデータにおいて、34 種類の社会的活動のうち反応に偏りのあった 20 種類を除いた因子分析の結果によると、社会的活動は、平成 14 年度および平成 15 年度のデータともにほぼ共通した項目からなる、訪問因子、地域因子、趣味因子の 3 因子から構成されていた。平成 14 年度と平成 15 年度において共通して、訪問因子は、遠くの友人を訪問する、遠くの親戚を訪問する、近くの友人を訪問する、近くの親戚を訪問する、デパートなどでの買い物、お参りや礼拝に行くという項目から成っており、地域因子は、町内会や自治会の活動、地域の行事の参加という項目から成っており、趣味因子は、レクリエーション活動、趣味の会など仲間内の活動、スポーツや運動から成っていた。近所づきあいおよび国内旅行は 2 つの因子に多少の負荷を示していた。近所づきあいは、訪問因子と地域因子に負荷を示しており、近所づきあいの隣人を訪問するという側面と、近所の活動に参加するという側面があること、また、国内旅行は訪問因子と趣味因子に負荷を示しており、国内旅行の遠方の友人等を訪問するという側面や、観光に代表されるように主体の嗜好が反映されるという側面があることから鑑みて、上記因子解釈の妥当性が確かめられる。

平成 14 年度のデータにおける、訪問因子を目的変数とした重回帰分析の結果から、訪問活動を促進する要因は、女性であること、社会的活動への参加の意義を感じていること、社会参加のきっかけとして友人のすすめ、自治会等の呼びかけを挙げていること、社会参加の妨害要因の質問に対して、誘ってくれる友人がいないこと、身体的疾患があること、費用がかかりすぎること、能力が活動に生かせないことの各項目にそれぞれ該当すると回答しなかったことであった。平成 15 年度のデータにおける、訪問因子を目的変数とした重回帰分析の結果から、訪問活動を促進するには、社会的活動への参加の意義を感じていること、社

会参加のきっかけとして区の広報を見て、を挙げていること、社会参加の妨害要因の質問に対して、時間的余裕がないことに該当すると回答したことであった。

平成 14 年度のデータにおける、地域因子を目的変数とした重回帰分析の結果から、地域活動を促進するには、女性であること、社会的活動への参加の意義を感じていること、社会参加のきっかけとして友人のすすめ、自治会等の呼びかけを挙げていること、社会参加の妨害要因の質問項目に対して、誘ってくれる友人がいないこと、自分にあった活動がないことに該当すると回答しなかったことであった。平成 15 年度のデータにおける、地域因子を目的変数とした重回帰分析の結果から、地域活動を促進するには、社会的活動への参加の意義を感じていること、社会参加のきっかけとして自治会等の呼びかけを挙げていること、社会参加の妨害要因に対する項目として、家族の理解が得られないことを該当すると回答したことであった。

平成 14 年度のデータにおける、趣味因子を目的変数とした重回帰分析の結果から、趣味活動を促進するには、女性であること、社会的活動への参加の意義を感じていること、社会参加のきっかけとして友人のすすめ、区の広報を見て、新聞等の情報、自治会等の呼びかけ、個人の意志を挙げていること、社会参加の妨害要因としてライフスタイルに合わないことを挙げ、視力の衰え、誘ってくれる友人がいないこと、過去の経験をいかせないこと、費用がかかりすぎることを挙げていることを考慮すべきことが示唆される。平成 15 年度のデータにおける、趣味因子を目的変数とした重回帰分析の結果から、趣味活動を促進するには、社会的活動への参加の意義を感じていること、社会参加のきっかけとして友人のすすめ、区の広報を見て、新聞等の情報、個人の意志を挙げていること、社会参加の妨害要因の項目に対して、社会的活動の情報が乏しいことを該当すると回答していることであった。

松岡⁶⁾の長野県における無作為抽出による60歳以上の1,500名を対象とした研究では、高齢者の社会参加は、活動能力の障害が少ないこと、活用できる技術・知識・資格をもっていること、親しい友人・隣人が多いことに強く影響されていることが示されている。また、宇良⁷⁾の沖縄県A市における社会的活動への参加をすすめても応じない事例111人を担当する保健相談訪問指導員と

よばれる有償ボランティア対象としたアンケート調査では、なぜ社会参加しないのか考えられる理由として、対人的ストレス、身体的不調、多忙のため、地域からの孤立・孤独感、必要性感じないなどのカテゴリーが得られている。本研究における協力者は、都内A区のシルバー人材センターあるいは老人クラブの会員であったため、相対的に社会的活動が活発であることが予想される。高橋ら⁸⁾は市町村別の調査対象集団の社会活動レベル調査結果から、調査対象者の属性によっても社会活動レベルの特徴が大きく異なり、例えば、老人大学の参加者を対象とした調査では、個人活動、学習活動が活発である者の割合が高い市町村が多く、老人クラブ会長を対象にした調査では、個人活動、社会参加・奉仕活動が活発である者の割合が高い市町村が多い、などの特徴を報告している。

上記の結果から、高齢者の社会的活動には、訪問、地域、趣味の3領域が基本的因子として抽出された。各因子に影響する可能性のある要因として、性、社会参加・社会活動の意義、家族、友人、健康・身体状態、経済状態、広報・メディア・自治体からの呼びかけ、個人の意志、自分にあった活動（活動の種類）、費用、時間的余裕、ライフスタイルなどが見出された。

一方、分担研究者の芳賀は、社会的活動には、親戚・友人との交流、町内会・自治会の活動、学習活動、OB会・同窓会などの活動、宗教的・政治的な活動の5因子を抽出している。これらの因子のうち、宗教的・政治的な活動以外の因子は、健康習慣実施数、健康度自己評価、生活満足度と関連することを示されている。また、年齢と世帯構成が、親戚・友人との交流以外の因子と関連することも示されている。高田は、70歳以上の男性では社会的活動への参加がQuality of Life (QOL)に影響することを見出している。さらに西下は、生きがいの有無、ボランティア活動の有無、近所づきあいの程度、友人訪問の程度、趣味の有無が幸福感に影響することを見出している。

これらの要因の関連は、社会的活動を中心として図1のようにモデル試案を図示することが可能である。本研究の結果および先行研究の成果からも、社会的活動への参加が、健康や幸福感、生活の質を高めることに有効であることは明らかといえよう。勿論、健康度や幸福感、生活の質の高い人が社会参加をしやすいという捉え方も可能ではあるが、実際には、介入可能もしくは介入

が相対的に容易な要因に対する支援システムを構築することが有用である。こうした意味もふまえて上記結果を総括すれば、高齢者の社会的活動への参加は心身の健康や幸福感、QOLを高めるために有用であり、地域において社会的活動への参加を促進するために集中すべきことは、1. 社会的活動のプログラムやメニューを作成する前に、性と年齢を考慮しつつ当該地域住民の要望を正確に把握すること、2. 住民の要望に沿った可能な限り多様な活動に、低費用で参加できるプログラム・メニューを提供しその運営の支援をすること、3. 友人や仲間作りを支援するシステムを構築すること、4. 様々な媒体を通じた情報の提供を含め、活動へのアクセスを整備すること、5. 地域住民が活動自体と活動への参加の意義を見出せるように、住民主体の活動が可能となる柔軟かつ多様な支援システムを構築すること、である。これらの結果をふまえて、来年度は、さらに詳細なデータの分析を行うとともに、現在継続中の地域住民に対する面接調査結果、および政担当者への面接調査の結果を加えて、高齢者の社会参加支援システムの構築を行う。

E. 結論

本研究から、社会的活動には、訪問、地域、趣味の因子が見いだされ、それらの因子には、性、社会参加・社会活動の意義、家族、友人、健康・身体状態、経済状態、広報・メディア・自治体からの呼びかけ、個人の意志、自分にあった活動(活動の種類)、費用、時間的余裕、ライフスタイルが影響することが示唆された。分担研究者の研究成果からは、地域高齢者の社会的活動への参加は、健康度、幸福感、QOLを高めることが示されている。

高齢者の社会的活動への参加は心身の健康や幸福感、QOLを高めるために有用であり、地域において高齢者の社会的活動への参加を促進するために集中すべきことは、1. 社会的活動のプログラムやメニューを作成する前に、性と年齢を考慮しつつ当該地域住民の要望を正確に把握すること、2. 住民の要望に沿った可能な限り多様な活動に、低費用で参加できるプログラム・メニューを提供しその運営の支援をすること、3. 友人や仲間作りを支援するシステムを構築すること、4. 様々な媒体を通じた情報の提供を含め、活動へのアクセスを整備すること、5. 地域住民が活動自体と活動への参加の意義を見出せるよ

うに、住民主体の活動が可能となる柔軟かつ多様な支援システムを構築すること、であると考えられる。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

文献

- 1) 長田久雄・岡本多喜子・立山萬里他. 老人性痴呆(ぼけ)に関する家族意識の調査研究報告書. 財団法人ぼけ予防協会. 2001.
- 2) 古谷野亘・柴田博. 老研式活動能力指標の交差妥当性. 老年社会科学. 14. 34-42. 1992.
- 3) 太田壽城・芳賀博・長田久雄他. 地域高齢者のためのQOL質問表の開発と評価. 日本公衆衛生雑誌. 48(4). 258-267. 2001.
- 4) 橋本修二・青木利恵・玉腰暁子他. 高齢者における社会活動状況の指標の開発. 日本公衆衛生雑誌. 44(10). 760-768. 1997.
- 5) 安藤孝敏・長田久雄・児玉好信. 孤独感尺度の作成と中高年における孤独感の関連要因. 横浜国立大学教育人間科学部紀要Ⅲ(社会科学). 3. 19-27. 2000.
- 6) 松岡英子. 高齢者の社会参加とその関連要因. 老年社会科学. 14. 15-23. 1992.
- 7) 宇良千秋. 高齢者の社会参加の促進・阻害要因. 老年精神医学雑誌. 14(7). 884-888. 2003.
- 8) 高橋美保子・柴崎智美・橋本修二他. 「いきいき社会活動チェック表」による地域高齢者の社会活動レベルの評価. 日本公衆衛生雑誌. 47(11). 936-944. 2000.

表 1. 社会的活動の各項目における社会参加得点の平均、標準偏差、および最小値と最大値(平成 14 年度)

	度数	平均	標準偏差	M-SD	M+SD	最小値	最大値
2 生活用品などの買い物	1625	3.327	0.748	2.579	4.076	1	4
1 近所づきあい	1619	3.128	0.856	2.272	3.983	1	4
10 お参りや礼拝に行く	1622	2.816	0.852	1.963	3.668	1	4
3 デパートなどでの買い物	1622	2.728	0.819	1.909	3.547	1	4
5 近くの親戚を訪問する	1616	2.671	0.782	1.889	3.452	1	4
4 近くの友人を訪問する	1622	2.656	0.802	1.854	3.458	1	4
7 遠くの親戚を訪問する	1617	2.421	0.757	1.664	3.178	1	4
8 国内旅行	1623	2.463	0.873	1.590	3.335	1	4
11 スポーツや運動	1619	2.448	1.025	1.423	3.474	1	4
6 遠くの友人を訪問する	1617	2.144	0.781	1.363	2.925	1	4
14 町内会や自治会の活動	1619	2.359	1.066	1.293	3.426	1	4
13 地域の行事の参加	1621	2.302	1.055	1.247	3.356	1	4
23 シルバー人材センターなどの活動	1621	2.344	1.132	1.212	3.476	1	4
17 趣味の会など仲間内の活動	1622	2.313	1.172	1.141	3.485	1	4
12 レクリエーション活動	1610	2.068	0.934	1.134	3.003	1	4
33 学校の同窓会	1624	1.991	1.056	0.935	3.046	1	4
18 社会奉仕	1621	1.935	1.004	0.931	2.939	1	4
15 町内会や自治会役員として活動	1619	2.004	1.124	0.880	3.128	1	4
22 市民講座などへの参加	1622	1.763	0.891	0.871	2.654	1	4
19 特技などを人に伝える活動	1625	1.760	0.917	0.843	2.677	1	4
16 老人会の活動	1619	1.813	1.059	0.754	2.872	1	4
25 政治団体への参加	1625	1.655	0.909	0.745	2.564	1	4
24 市民活動など団体の参加	1624	1.531	0.816	0.715	2.347	1	4
26 インターネット上のサークル	1623	1.134	0.425	0.710	1.559	1	4
28 会社 OB 会への参加	1621	1.643	0.946	0.697	2.589	1	4
9 外国旅行	1612	1.294	0.609	0.685	1.903	1	4
30 学校学習の支援	1622	1.182	0.515	0.667	1.698	1	4
27 PTA の OB 会の参加	1619	1.210	0.558	0.652	1.768	1	4
21 カルチャーセンターなどの学習活動	1620	1.362	0.713	0.649	2.074	1	4
34 研修会・講座などの講師	1608	1.171	0.523	0.648	1.694	1	4
20 高齢者学級などの活動	1624	1.259	0.613	0.646	1.872	1	4
31 授業参観	1613	1.193	0.549	0.644	1.741	1	4
32 各種協議会の委員	1622	1.346	0.776	0.570	2.123	1	4
29 宗教団体の活動	1627	1.381	0.839	0.542	2.220	1	4

N=1509

表 2. 因子分析に投入した 14 項目とその合計の相関行列(平成 14 年度)

	1	3	4	5	6	7	8	10	11	12	13	14	17	23
	近所づきあい	デパートなどでの買い物	近くの友人を訪問する	近くの親戚を訪問する	遠くの友人を訪問する	遠くの親戚を訪問する	国内旅行	お参りや礼拝に行く	スポーツや運動	レクリエーション活動	地域の行事の参加	町内会や自治会の活動	趣味の会など仲間内の活動	シルバー人材センターなどの活動
1 近所づきあい	1													
3 デパートなどでの買い物	.242**	1												
4 近くの友人を訪問する	.507**	.341**	1											
5 近くの親戚を訪問する	.330**	.284**	.410**	1										
6 遠くの友人を訪問する	.300**	.353**	.543**	.416**	1									
7 遠くの親戚を訪問する	.308**	.260**	.355**	.499**	.483**	1								
8 国内旅行	.211**	.259**	.271**	.262**	.301**	.329**	1							
10 お参りや礼拝に行く	.295**	.251**	.257**	.315**	.243**	.292**	.285**	1						
11 スポーツや運動	.205**	.217**	.202**	.241**	.250**	.206**	.231**	.250**	1					
12 レクリエーション活動	.303**	.257**	.323**	.274**	.328**	.290**	.356**	.275**	.489**	1				
13 地域の行事の参加	.454**	.187**	.401**	.272**	.305**	.282**	.290**	.255**	.251**	.450**	1			
14 町内会や自治会の活動	.428**	.168**	.346**	.245**	.234**	.211**	.232**	.194**	.204**	.391**	.678**	1		
17 趣味の会など仲間内の活動	.244**	.198**	.309**	.206**	.281**	.210**	.358**	.196**	.349**	.537**	.390**	.360**	1	
23 シルバー人材センターなどの活動	.150**	.081**	.140**	.118**	.125**	.127**	.119**	.129**	.127**	.163**	.159**	.214**	.137**	1
社会参加加点合計	.606**	.484**	.646**	.572**	.609**	.567**	.550**	.509**	.536**	.687**	.684**	.632**	.621**	.374**

**p<.01

N=1570

表 3. パリマックス回転後の因子負荷量(平成 14 年度)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
6 遠くの友人を訪問する	0.669	0.126	0.200	0.504
7 遠くの親戚を訪問する	0.618	0.111	0.169	0.423
4 近くの友人を訪問する	0.617	0.315	0.141	0.499
5 近くの親戚を訪問する	0.610	0.138	0.149	0.413
3 デパートなどでの買い物	0.434	0.069	0.202	0.234
10 お参りや礼拝に行く	0.363	0.133	0.233	0.204
14 町内会や自治会の活動	0.136	0.779	0.217	0.673
13 地域の行事の参加	0.220	0.747	0.280	0.685
1 近所づきあい	0.424	0.448	0.119	0.395
12 レクリエーション活動	0.216	0.254	0.752	0.677
17 趣味の会など仲間内の活動	0.175	0.267	0.569	0.426
11 スポーツや運動	0.199	0.072	0.554	0.352
8 国内旅行	0.334	0.141	0.357	0.258
説明分散	2.377	1.696	1.669	5.743

表 4. 訪問因子を目的変数とした重回帰分析(平成 14 年度)

	標準偏回帰係数(β) 相関係数(r)	
性別	0.157 **	0.190 **
問 14 社会的活動の参加意義	0.208 **	0.252 **
問 12-1 友人のすすめ	0.122 **	0.154 **
問 12-4 活動団体の呼びかけ	0.024	0.053 *
問 12-6 自治会等の呼びかけ	0.088 **	0.138 **
問 12-7 個人の意思	0.040	0.055 *
問 15A-2 参加意欲がわからない	-0.004	-0.072 **
問 15A-3 ライフスタイルに合わない	0.001	-0.051 *
問 15A-11 誘ってくれる友人がいない	-0.099 **	-0.143 **
問 15A-12 興味の持てる活動がない	-0.018	-0.096 **
問 15A-13 身体的疾患がある	-0.054 *	-0.083 **
問 15A-15 人間関係が煩わしい	-0.063	-0.107 **
問 15A-17 新しい人間関係が面倒	-0.004	-0.073 **
問 15A-19 過去の経験をいかせない	-0.047	-0.099 **
問 15B-4 費用がかかりすぎる	-0.049 *	-0.086 **
問 15B-5 家事が忙しい	0.041	0.055 *
問 15C-2 自分にあつた活動がない	-0.017	-0.094 **
問 15C-5 能力が活動に生かせない	-0.061 *	-0.106 **
決定係数(R^2)	0.164	

** $p < .01$, * $p < .05$

表 5. 地域因子を目的変数とした重回帰分析(平成 14 年度)

	標準偏回帰係数(β) 相関係数(r)	
性別	0.067 **	0.082 **
問 14 社会的活動の参加意義	0.157 **	0.243 **
問 12-1 友人のすすめ	0.103 **	0.154 **
問 12-4 活動団体の呼びかけ	0.000	0.060 *
問 12-6 自治会等の呼びかけ	0.424 **	0.469 **
問 15A-2 参加意欲がわからない	-0.012	-0.073 **
問 15A-5 視力の衰え	-0.032	-0.057 *
問 15A-11 誘ってくれる友人がいない	-0.093 **	-0.136 **
問 15A-12 興味の持てる活動がない	-0.025	-0.091 **
問 15A-13 身体的疾患がある	-0.036	-0.071 **
問 15A-15 人間関係が煩わしい	0.004	-0.058 *
問 15A-17 新しい人間関係が面倒	-0.021	-0.081 **
問 15A-19 過去の経験をいかせない	-0.011	-0.059 *
問 15C-2 自分にあつた活動がない	-0.049 *	-0.085 **
問 15C-3 参加を支援する体制が不十分	0.032	0.061 *
問 15C-5 能力が活動に生かせない	-0.039	-0.063 *
決定係数(R^2)	0.288	

** $p < .01$, * $p < .05$

表 6. 趣味因子を目的変数とした重回帰分析(平成 14 年度)

	標準偏回帰係数(β) 相関係数(r)	
性別	0.082 **	0.098 **
問 14 社会的活動の参加意義	0.203 **	0.269 **
問 12-1 友人のすすめ	0.131 **	0.177 **
問 12-3 区の広報を見て	0.065 **	0.130 **
問 12-4 活動団体の呼びかけ	0.028	0.083 **
問 12-5 新聞等の情報	0.050 *	0.088 **
問 12-6 自治会等の呼びかけ	0.142 **	0.195 **
問 12-7 個人の意思	0.091 **	0.126 **
問 15A-3 ライフスタイルに合わない	0.067 **	0.056 *
問 15A-5 視力の衰え	-0.060 *	-0.069 **
問 15A-11 誘ってくれる友人がいない	-0.072 **	-0.096 **
問 15A-19 過去の経験をいかせない	-0.084 **	-0.086 **
問 15B-4 費用がかかりすぎる	-0.073 **	-0.069 **
問 15C-3 参加を支援する体制が不十分	0.031	0.006 *
決定係数(R^2)	0.169	

** $p < .01$, * $p < .05$

表 7. 社会的活動の各項目における社会参加得点の平均、標準偏差、および最小値と最大値(平成 15 年度)

	度数	平均値	標準偏差	M-SD	M+SD	最小値	最大値
2 生活用品などの買い物	1158	3.326	0.735	2.592	4.061	1	4
1 近所づきあい	1155	3.124	0.824	2.300	3.948	1	4
10 お参りや礼拝に行く	1154	2.873	0.841	2.032	3.715	1	4
3 デパートなどでの買い物	1156	2.677	0.814	1.864	3.491	1	4
5 近くの親戚を訪問する	1150	2.626	0.782	1.844	3.408	1	4
4 近くの友人を訪問する	1151	2.636	0.825	1.811	3.461	1	4
8 国内旅行	1155	2.458	0.845	1.613	3.303	1	4
7 遠くの親戚を訪問する	1150	2.365	0.759	1.606	3.125	1	4
11 スポーツや運動	1156	2.453	1.025	1.428	3.479	1	4
23 シルバー人材センターなどの活動	1149	2.562	1.138	1.424	3.700	1	4
14 町内会や自治会の活動	1156	2.441	1.076	1.365	3.517	1	4
13 地域の行事の参加	1154	2.350	1.054	1.296	3.404	1	4
6 遠くの友人を訪問する	1154	2.068	0.790	1.278	2.857	1	4
17 趣味の会など仲間内の活動	1152	2.408	1.149	1.259	3.556	1	4
12 レクリエーション活動	1148	2.131	0.926	1.204	3.057	1	4
18 社会奉仕	1151	2.004	1.011	0.994	3.015	1	4
22 市民講座などへの参加	1139	1.822	0.890	0.932	2.711	1	4
15 町内会や自治会役員として活動	1152	2.063	1.144	0.919	3.206	1	4
19 特技などを人に伝える活動	1143	1.854	0.942	0.912	2.796	1	4
33 学校の同窓会	1150	1.960	1.069	0.891	3.029	1	4
16 老人会の活動	1150	1.949	1.106	0.843	3.055	1	4
25 政治団体への参加	1151	1.720	0.916	0.804	2.637	1	4
24 市民活動など団体の参加	1147	1.650	0.866	0.785	2.516	1	4
26 インターネット上のサークル	1143	1.153	0.431	0.722	1.584	1	4
28 会社 OB 会への参加	1136	1.677	0.976	0.701	2.653	1	4
9 外国旅行	1148	1.276	0.575	0.701	1.851	1	4
21 カルチャーセンターなどの学習活動	1136	1.428	0.747	0.680	2.175	1	4
20 高齢者学級などの活動	1145	1.346	0.666	0.680	2.012	1	4
34 研修会・講座などの講師	1118	1.169	0.500	0.669	1.669	1	4
30 学校学習の支援	1139	1.207	0.555	0.652	1.763	1	4
27 PTA の OB 会の参加	1139	1.291	0.651	0.639	1.942	1	4
31 授業参観	1124	1.228	0.605	0.622	1.833	1	4
32 各種協議会の委員	1129	1.383	0.798	0.584	2.181	1	4
29 宗教団体の活動	1145	1.426	0.861	0.565	2.287	1	4

N=1009

表 8. 因子分析に投入した 14 項目とその合計の相関行列(平成 15 年度)

	5	6	7	4	1	3	10	12	17	11	8	14	13	
	近くの親戚を訪問する	遠くの友人を訪問する	遠くの親戚を訪問する	近くの友人を訪問する	近所づきあい	デパートなどでの買い物	お参りや礼拝に行く	レクリエーション活動	趣味の会など仲間内の活動	スポーツや運動	国内旅行	町内会や自治会の活動	地域の行事の参加	社会参加得点合計
5 近くの親戚を訪問する	1													
6 遠くの友人を訪問する	.456**	1												
7 遠くの親戚を訪問する	.554**	.476**	1											
4 近くの友人を訪問する	.431**	.565**	.396**	1										
1 近所づきあい	.335**	.375**	.324**	.494**	1									
3 デパートなどでの買い物	.293**	.316**	.274**	.338**	.225**	1								
10 お参りや礼拝に行く	.325**	.243**	.294**	.278**	.263**	.284**	1							
12 レクリエーション活動	.250**	.327**	.270**	.340**	.287**	.238**	.263**	1						
17 趣味の会など仲間内の活動	.208**	.275**	.187**	.314**	.283**	.208**	.191**	.552**	1					
11 スポーツや運動	.195**	.219**	.223**	.214**	.183**	.203**	.262**	.514**	.344**	1				
8 国内旅行	.265**	.297**	.297**	.276**	.206**	.279**	.271**	.366**	.335**	.208**	1			
14 町内会や自治会の活動	.225**	.256**	.219**	.358**	.414**	.182**	.190**	.363**	.320**	.225**	.204**	1		
13 地域の行事の参加	.273**	.297**	.232**	.378**	.418**	.182**	.280**	.436**	.388**	.302**	.292**	.683**	1	
社会参加得点合計	.586**	.628**	.576**	.672**	.607**	.496**	.518**	.686**	.623**	.545**	.543**	.623**	.689**	1

**p<.01
N=1102

表 9. バリマックス回転後の因子負荷量(平成 15 年度)

	因子 I	因子 II	因子 III	共通性
5 近くの親戚を訪問する	0.675	0.112	0.116	0.482
6 遠くの友人を訪問する	0.666	0.194	0.143	0.502
7 遠くの親戚を訪問する	0.666	0.141	0.078	0.469
4 近くの友人を訪問する	0.618	0.189	0.285	0.499
1 近所づきあい	0.445	0.141	0.400	0.378
3 デパートなどでの買い物	0.412	0.193	0.078	0.213
10 お参りや礼拝に行く	0.370	0.219	0.139	0.204
12 レクリエーション活動	0.202	0.812	0.204	0.741
17 趣味の会など仲間内の活動	0.185	0.570	0.235	0.415
11 スポーツや運動	0.166	0.551	0.114	0.345
8 国内旅行	0.330	0.350	0.121	0.246
14 町内会や自治会の活動	0.165	0.200	0.788	0.689
13 地域の行事の参加	0.202	0.309	0.741	0.685
説明分散	2.508	1.757	1.602	5.867

表 10. 訪問因子を目的変数とした重回帰分析(平成 15 年度)

	標準偏回帰係数(β)	相関係数(r)
問 14 社会的活動の参加意義	0.206 **	0.238 **
問 12-3 区の広報を見て	0.113 *	0.182 **
問 12-4 活動団体の呼びかけ	0.079	0.113 *
問 12-7 個人の意味	0.071	0.132 *
問 15A-14 時間的余裕がない	0.120 *	0.127 *
問 15B-7 施設などの利用がしにくい	0.068	0.124 *
決定係数(R^2)	0.109	

** $p < .01$, * $p < .05$

表 11. 趣味因子を目的変数とした重回帰分析(平成 15 年度)

	標準偏回帰係数(β)	相関係数(r)
満年齢	-0.071	-0.135 *
問 14 社会的活動の参加意義	0.179 **	0.311 **
問 12-1 友人のすすめ	0.162 **	0.147 **
問 12-3 区の広報を見て	0.130 *	0.170 **
問 12-5 新聞等の情報	0.163 **	0.206 **
問 12-7 個人の意味	0.181 **	0.254 **
問 15B-1 家族の理解が得られない	0.072	0.124 *
問 15C-1 社会的活動の情報が乏しい	0.104 *	0.204 **
問 15C-2 自分にあつた活動がない	-0.060	-0.138 *
問 15C-3 参加を支援する体制が不十分	0.077	0.155 **
決定係数(R^2)	0.236	

** $p < .01$, * $p < .05$

表 12. 地域因子を目的変数とした重回帰分析(平成 15 年度)

	標準偏回帰係数(β)	相関係数(r)
問 14 社会的活動の参加意義	0.265 **	0.295 **
問 12-1 友人のすすめ	0.031	0.112 *
問 12-6 自治会等の呼びかけ	0.371 **	0.388 **
問 15B-1 家族の理解が得られない	0.098 *	0.118 *
問 15C-2 自分にあつた活動がない	-0.072	-0.143 *
問 15C-3 参加を支援する体制が不十分	0.056	0.133 *
決定係数(R^2)	0.257	

** $p < .01$, * $p < .05$

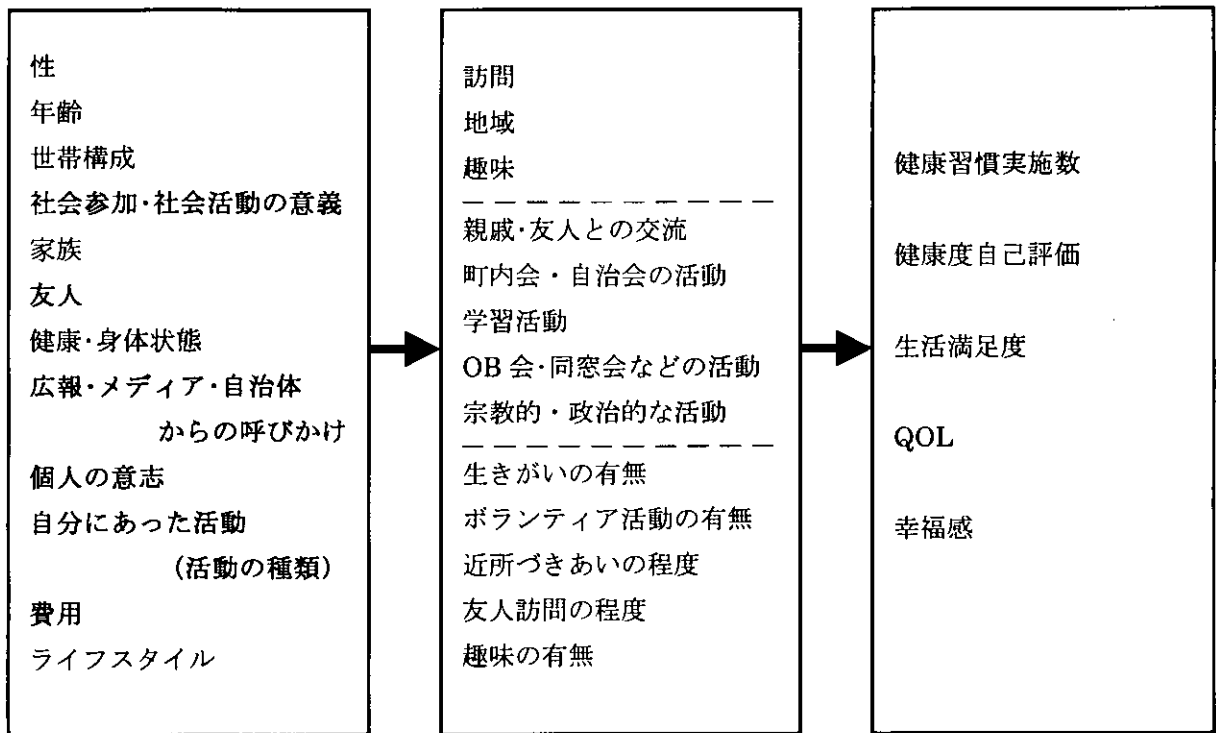


図1. 社会的活動に関連する要因のモデル試案

(ボルト体は介入可能な要因を示す)

高齢者の社会参加に関するアンケート調査

調査ご協力のお願い

この調査は、厚生労働省科学研究費の補助を受け、足立区社会教育委員会のご協力の下、みなさまの社会的活動への参加と、それに関する心身の健康や日常生活に関してお尋ねし、豊かな高齢社会の実現に資することを目的としております。たくさんの質問があり恐縮ですが、何卒、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

調査結果は、プライバシーに配慮し、集団のデータとして処理いたします。また、アンケート結果は、研究目的以外に使用しませんし、結果の分析が終了しました後、研究者の責任において適切に処理させていただきます。なお、今回ご協力くださいました方には、ほぼ1年後に、再度調査させていただきますと存じます。ご協力頂けます方には、最終11ページにご氏名とご連絡先をご記入くださいますようお願い申し上げます。

各方面にご協力頂き調査票を配布させて頂いておりますので、重複してお願い申し上げました場合には、1回分だけご回答くださいますようお願いいたします。

平成15年1月
研究代表者 長田久雄
桜美林大学大学院教授
足立区社会教育委員

問い合わせ事務局
ジュコークリエイティブ
調査部
東京都文京区白山1-7-6
電話 03-5689-2641

◎記入上のお願い

1. 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことから、または数字を書き込むものがあります。
2. 都合によりご自分で記入できない方は、代理の方に記入していただくようお願いいたします。

問1. 生年月月をご記入ください。

1. 明治
2. 大正 年 月生 満 歳
3. 昭和

問2. 性別 1. 男 2. 女

問3. あなたの世帯の同居人数は、ご自分を含めて全員で何人ですか。人数をご記入ください。
(同一敷地内別棟も同居とみなしてお答えください。)

ご自分を含めて ()人 ※一人暮らしの場合は、「1」とご記入ください。

問4. あなたは、どなたと同居されていますか。それぞれの項目ごとに、「いる」「いない」どちらかに○印をつけてください。

ア. 配偶者（夫または妻）	1. いる	2. いない
イ. 未婚の子ども	1. いる（ 人）	2. いない
ウ. 既婚の子ども（子どもの配偶者も含む）	1. いる（ 人）	2. いない
エ. 孫（孫の配偶者も含む）	1. いる（ 人）	2. いない
オ. あなたの父母。または、配偶者の父母	1. いる（ 人）	2. いない
カ. その他（ ）	1. いる（ 人）	2. いない

問5. さっそくですが、あなたは、全体として現在の生活に満足していらっしゃいますか。

1. 非常に満足 2. まあ満足 3. あまり満足 4. 満足
 している している していない していない

問6. あなたはふだん、ご自分で健康だと思えますか。次のうち、もっともあてはまる番号をひとつ選んで○印をつけてください。

1. 非常に健康 2. まあ健康な 3. あまり健康 4. 健康
 だと思 方だと思 ではない ではない